

日中平和友好条約締結 40 周年記念プロジェクト管理座談会の開催

事務局

平成 30 年 10 月 24 日、河南省鄭州市において、日中平和友好条約締結 40 周年記念プロジェクト管理座談会が開催されました。座談会は、国家林業・草原局対外プロジェクトセンターと日中緑化交流基金が共催して、助成事業の実施状況と造成した植林地の維持管理について、中国各地の関係者の間で技術や経験を交換することを目的に毎年開催されてきましたが、今回は、日中平和友好条約締結 40 周年を記念して、日本の助成事業実施者による報告を含めるとともに、記念植樹の式典が併せて開催されました。



座談会には、日本から参加した梶谷事務局長ほかの日中緑化交流基金と日本青年団協議会鳥澤事務局長のほか、国家林業・草原局と中国国際青年交流中心をはじめ、中国各省・自治区の林業庁など関係部門から 160 名ほどの参加者がありました。

座談会の開会にあたり、河南省林業庁の李(り)軍副庁長が歓迎の挨拶を述べ、国家林業・草原局対外プロジェクトセンターの許強興副主任が主催者として挨拶しました。続いて、梶谷事務局長が挨拶し、「今年度で助成事業を終了するが、これまで 100 億円を上回る金額を費やして中国に植林ができ、中国の生態改善はもとより日中両国民の交流促進の面でも大いに貢献できた。」旨述べました。最後に国際青年交流中心の紅桂梅副主任が挨拶し、「自分は 20 年近く日中緑化交流基金の事業に携わり、植えた木の生長とともに日中青少年の絆も強くなった。」と述べ、会場から大きな拍手が起こりました。

プロジェクトの報告では、河南省、寧夏回族自治区、中華全国青年連合会、北京市の事業実施責任者から、事業の概要、環境改善、地域住民の環境意識の向上など事業

の効果、今後の植林地の維持管理のための取組について述べられました。また、日本青年団協議会鳥澤事務局長は、砂漠緑化の取組に関するビデオを上映した上で、同協議会の中国での植林の取組について報告し、「水を飲む時は井戸を掘った人の苦労を忘れてはならない」との言葉を胸に青年交流植樹に取り組んできて中国との強いネットワークができた。」と述べました。最後に対外プロジェクトセンターの許副主任が総括の発言をし、座談会は終了しました。



座談会の前日の10月23日には、鄭州市の西の洛陽市孟津県の助成事業実施地において、児童生徒をはじめ地元の人々と座談会参加者合わせて400名ほどが参加して植樹式典が開催されました。

式典開会にあたり、孟津県の宗国明県長が挨拶し、同県における助成事業の成果と日中緑化交流基金への感謝を述べ、日中両国民の交流とさらなる友好の発展を期待する旨が述べられました。続いて梶谷事務局長が、「日中平和友好条約発効からちょうど40周年を迎えたこの日にこうした催しが行われたことはたいへん意義深く、今後植林地が日中両国民の交流の拠点となり、友好の輪がさらに発展することを祈念する。」と述べました。最後に地元生徒の代表が「植樹活動への参加を契機に今後とも地域の環境の保全に努めていきたい。」と力強く宣言しました。

来賓一同による「友誼林」と刻まれた記念碑の除幕が行われた後、40周年に併せてコノテガシワとヒマラヤスギ各40本が用意された苗木を参加者達は植えました。植樹の様子はドローンでも撮影され、座談会と併せて、地元のテレビ、ラジオ、新聞で紹介されました。



この週は、ちょうど安倍総理大臣が訪中して李克強首相、習近平主席と会談して両国の友好発展の気運が高まってきたこともあり、今回の河南省での行事においても、日中の友好関係をさらに発展させようとの気持ちの高まりが感じられました。